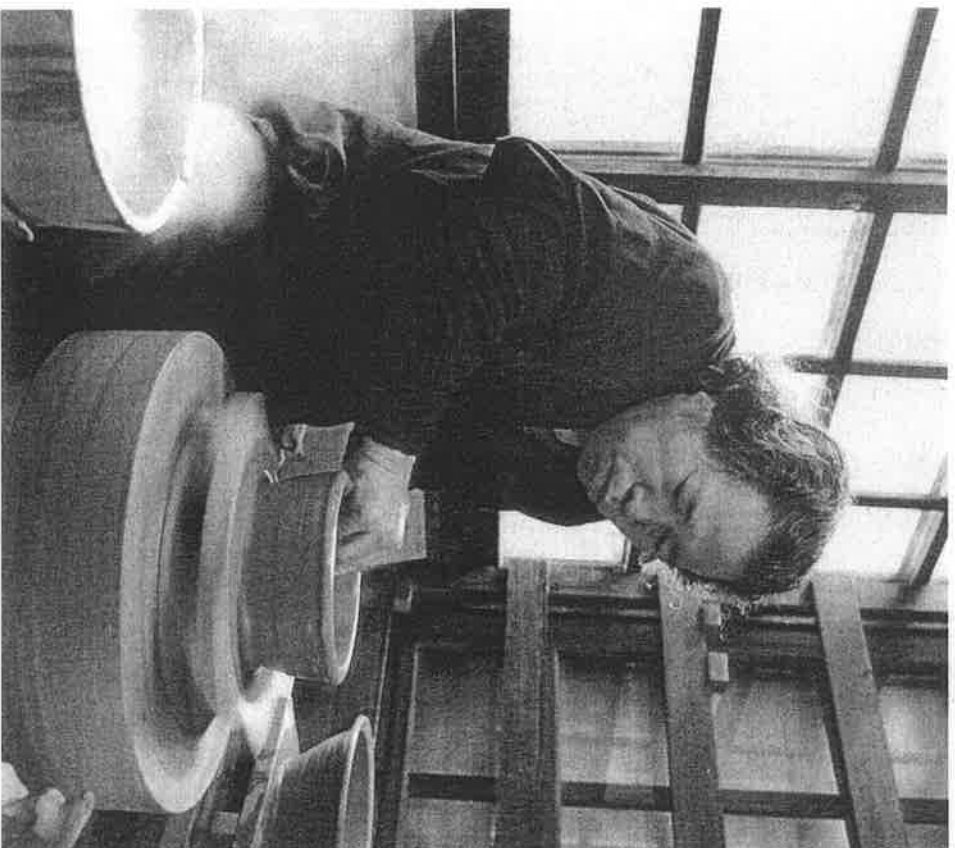


井上泰秋



概要

氏 名 井上泰秋 (いのうえ たいしゅう)
職 業 陶芸家
住 所 荒尾市府本 351 - 4
主な活動地 熊本県内、全国各地

(特別賞)

井上泰秋氏は、昭和三十二年熊本県工業試験場窯業部で学び、昭和三十四年森野嘉光氏（京都・日展作家）に師事。昭和三十五年重治太郎氏（小代健重窯）のもとで作陶に励み、昭和四十年熊本市黒髪町にて肥後焼窯元として独立した。昭和四十三年に窯を荒尾市に移転後、小代焼ふもと窯と改名し、鉄分の多い小岱山の粘土を胎土に、藁、木などの灰を釉薬として、松薪を用い、六袋の登り窯（昭和五十二年築窯）で焼成を行い、小代焼四百年の伝統と歴史の重みを感じながら作陶に取り組んでいる。

これまで日本民芸館展の最高賞受賞をはじめ数々の作品展で受賞を果たし、特に一般公募の日本最大級の陶芸展である二〇〇一年第十六回日本陶芸展（毎日新聞社主催・文化庁後援）では、「青小代掛含流大皿」で熊本県内の陶芸家としては初めて優秀作品賞「毎日新聞社賞（第三部実用）」を受賞するなど、非凡な力量とその努力が認められた。

先の「くまもと未来団体」の開催の折、井上氏の小代焼大皿が来熊された天皇皇后両陛下のお目に留まったことがきっかけとなり、展示品よりひとまわり大きい作品を焼き上げ、宮内庁に納めることとなった。

作陶の傍ら若手の育成にも力を入れ、これまでに小代焼をはじめ五人の窯元を輩出させるなど、現在も内弟子を育て続けている。

また、平成十三年四月に設立された荒尾玉名地域窯元振興会の代表として、荒尾玉名地域の二十四窯元をまとめあげ、積極的に地域の伝統産業の発展に取り組んでいる。昨春秋、荒尾玉名地域で開催された第十四回熊本県民文化祭では、自ら「登り窯窯焚き体験事業」を企画運営するとともに、窯元展をはじめとした陶芸部門の中心的役割を果たした。

今後とも県の伝統工芸の発展に欠かせない存在であり、ますますの活躍が期待される。

これまでの活動歴

- 昭和三十二年 熊本県工業試験場窯業（陶芸）部入所（一九五七年）
 - 昭和三十五年 小代健重窯で作陶に励む傍ら、茶道肥後古流を習い始める（一九六〇年）
 - 昭和四十年 熊本市黒髪町にて肥後焼窯元として独立（一九六五年）
 - 昭和四十三年 荒尾市府本に窯を移築、小代焼ふもと窯と改名（一九六八年）
 - 昭和五十二年 五袋の登り窯を築窯（のち六袋に増築）（一九七七年）
 - 昭和五十三年 日本民芸館展館賞（最高賞）受賞（一九七八年）
 - 昭和五十七年 熊本総合美術展熊日賞（グランプリ）受賞（一九八二年）
 - 平成元年 西日本陶芸美術展大賞（内閣総理大臣賞）受賞（一九八九年）
 - 平成九年 東京、京都、大阪、福岡、熊本などこれまでに三十回の個展を開催（一九九七年）
 - 平成十一年 沖縄現代陶芸招聘審査員（三回目）NHK・BS「やきもの探訪」出演（一九九九年）
 - 平成十二年 天皇・皇后両陛下より御注文の大皿を制作（二〇〇〇年）
 - 平成十三年 荒尾玉名地域窯元振興会が設立され、代表となる（二〇〇一年）
- 美術館収蔵）